

「銀山温泉におけるオーバーツーリズム対策」に関する実証実験 ～対策の必要性について、観光客から一定の理解を得られることがわかりました～

令和 6 年 12 月 23 日から令和 7 年 1 月 6 日の期間、銀山温泉エリアにおいて、観光客の安全確保と快適な観光地づくりに向けて、“マイカー規制（パークアンドライド）”と“観光客の総量調整（分散化）”に関する実証実験を実施しました。

実証期間中は、交通支障事案（路上駐車、雪道のスタック等）が前年よりも減少し、観光客の来訪時間はやや分散しました。こうしたことから、この度の実証の手法は、円滑な交通と安全性の確保、温泉街の混雑緩和に寄与することが確認できました。

また、期間中に実施した観光客アンケート調査の結果から、温泉街の混雑が観光客の満足度低下の要因のひとつであることが把握できたほか、安全性の確保や混雑緩和に資する対策の必要性、またそれに要する費用負担についても、一定の理解が得られることがわかりました。

1. 実証実験の概要

実施主体	尾花沢市
実証実験の実施期間	令和 6 年 12 月 23 日（月）～令和 7 年 1 月 6 日（月）15 日間
マイカー規制の時間帯	9：00～21：00
マイカー規制の対象者	自家用車等（レンタカーを含む）で来訪した日帰り客
マイカー規制の手法	パークアンドライド （パークアンドライド拠点（大正ろまん館駐車場）に自家用車等を駐車し、シャトルバスに乗り換えて温泉街に向かう）
シャトルバスの種類	小型バス／ジャンボタクシー
総量調整の手法	シャトルバス乗車の事前予約制 （16：00～20：00 の時間帯は、シャトルバスの事前予約により温泉街流入客数を調整）
アンケート調査	旅行満足度などに関するアンケート調査 （調査員によるインタビュー形式とオンライン回答形式）



国土地理院地図ウェブサイトをもとに尾花沢市作成

《実証実験の全体イメージ》

2. 実証実験の結果のまとめ

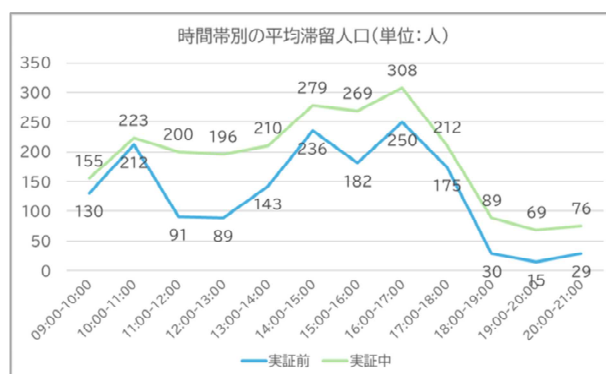
(1) マイカー規制（パークアンドライド）

- パークアンドライド拠点（大正ろまん館駐車場）入口にて、自家用車等で来訪した観光客に実証実験について説明し誘導。大きな混乱もなくご協力いただけました。
- その結果、実証期間中は交通支障事案（車両の立ち往生や路上駐車など）の減少を確認できました。
- 駐車場が満車となる時間帯には、入口付近で渋滞が発生。外国人観光客への説明に苦慮する場面もあり、誰にとってもわかりやすい手法（取組み内容）や周知に課題が残りました。



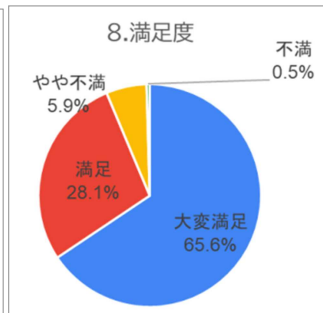
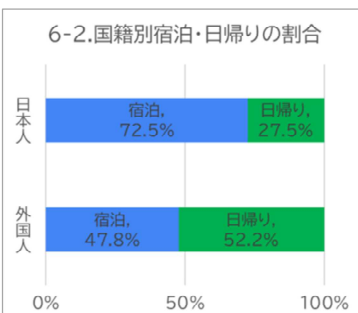
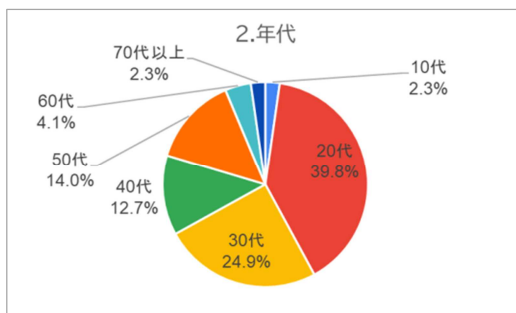
(2) 観光客の総量調整

- 16 時以降のシャトルバス乗車を WEB による予約制とし、銀山温泉街への流入客数をコントロール。今回の実証では、1 時間当たりの上限数を概ね 150 人と設定しました。
- 予約制を知らない観光客もいらっしゃいましたが、事前予約数に達していない人数を当日予約として受け付け運営しました。上限数に達していた際には、別の時間帯での乗車にご協力いただきました。
- マイカー規制同様、大きな混乱もなくご協力いただけたことから、適切な運営であったと評価することができます。また、温泉街における滞在者数（平均滞留人口）の推移では、16 時から 17 時がピーク（約 300 人）になっていますが、実証前と比較すると全体的に平準化が図れたと考えられます。



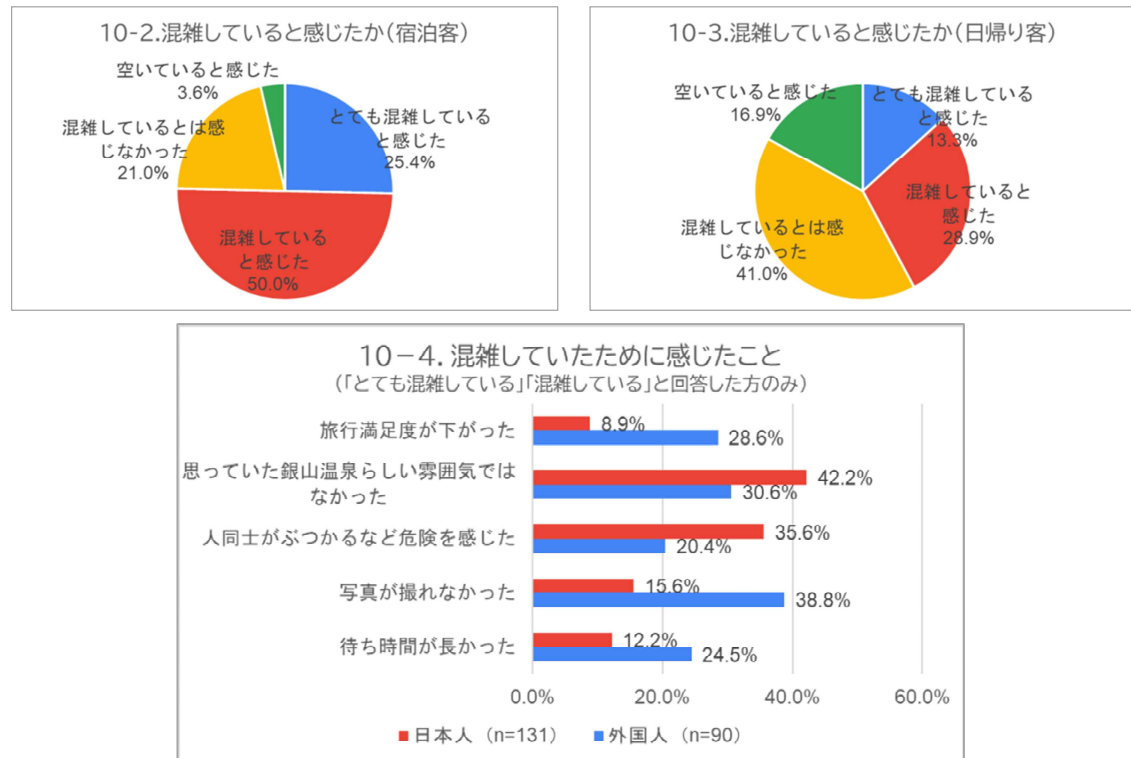
(3) アンケート調査の結果

- 221 サンプルのうち、約 60%は日本人観光客、約 40%は外国人観光客で、年代は 20 代から 40 代が中心でした。
- また、日本人観光客では宿泊が多くを占める一方、外国人観光客の半数は日帰りであることがわかりました。
- さらに、銀山温泉の旅行満足度は非常に高いことがわかりました。

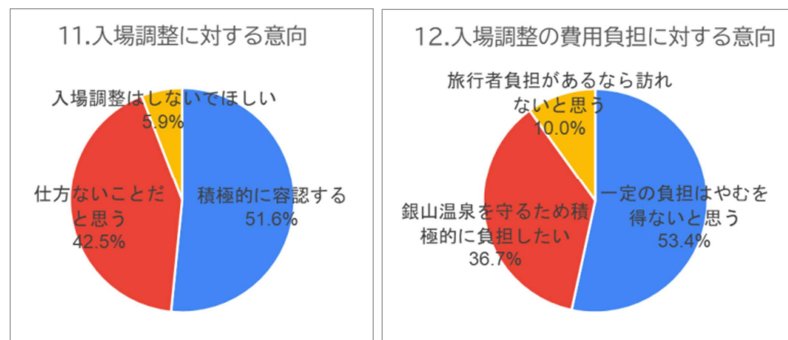


- 実証期間中における銀山温泉街の混雑については、宿泊客は約 75%の人が混雑していると感じており、日帰り客で混雑していると感じている方は約 43%にとどまりました。また、混雑していると感じている人のうち日本人は、「銀山らしさの喪失」

や「歩行時の危険性」を感じている一方、外国人観光客は「写真が撮れない」や「待ち時間が長い」と感じ、混雑の度合いが「旅行満足度」の低下につながることもわかりました。



- また、観光客の総量調整に対して約95%が好意的な意見を持っており、これに要する費用負担についても「やむを得ない」という意見が半数を占めました。さらに、約36%の人が「銀山温泉を守るために積極的に負担したい」との意見を持っていることもわかりました。



3. 今後の課題

今回の実証実験で実施した取組みは、オーバーツーリズムの未然防止・抑制に一定の効果がありました。一方で、引き続き検討が必要な事項も見えてきました。

- ① 誰にとってもわかりやすい手法（取組み内容）と効果的な周知方法の検討が必要です。
- ② パークアンドライド拠点（大正ろまん館駐車場）の許容量を超過する場面があったことから、特に大型バスについては何らかの対策が必要です。
- ③ アンケート調査の結果を見ると、「温泉街が混雑していると感じる」と回答した割合が高いため、温泉街の「1時間あたりの受入許容人数」の設定についてさらなる検証が必要です。
- ④ 「銀山温泉を守っていこう」という気運を高めていくため、何らかの取組みが必要です。